

●ESEC2011（2011年5月11日12日）の状況について下記します。

●全体概要全体的には昨年度の3分の2くらいの規模であり、入場者は少なかった。

＜写真：まばらな状況参照＞反対に同時開催のスマートフォン、クラウドの展示会場が賑やかであった。

★組込みシステムからアプリ、サービスにビジネスの関心が移ってきている。そこでIPAなどは統合システムと言ってサービスも包含しようとしている。さらにそこに第三者検証サービス、資格をいれ、安心、安全を担保することを言い始めている。

★また設計手法ではモデルベース開発が主流になりつつある。検証がさらに重要になる。

★ESEC会場ではAndroidのSDK、実装などの関連する展示エリアがありここは賑やかで人が多いという状況。スマートフォンが今年のキーワード。

★プロダクトライン（PL）開発は、宣伝から具体的成果の時期になってPL手法に使えるツール小さな機能のツールがでてきている。

●下記にトピックスを記述します。

右かっこの番号はパンフの番号で上述の送付データのPDFの番号です。

1】IPA統合システムと第三者検証IPAブースでは、統合システムについての開発手法についてモデルベース設計について力が入っている。組込みシステムだけでなくネットワーク、クラウド、サーバーアプリまで含めた検証をどうするか、想定外のバグについてどうするかが関心時。スマートハウスを統合システムの例としての説明がなされている。

2】モデルベース開発そして検証統合システムでは規模大きく複雑になるので、モデルベース設計が必須になり、さらにモデル検証が必須になりそう。19) 11) 第三者検証ということばが各社でてきており、想定外をなくすという言葉も。15), 13) 東芝情報システムの三島氏の講演、デンソーの後藤氏の講演資料を送付データにいらてます。これでモデルベース開発の必要性が説明されてます。20) 21)

3】ツール関連プロダクトライン開発のツールは、昨年まではZIPC-SPLM、Gears、PureVariantが出展され、自動車会社を中心に関心が集まっていたが、今年は一切なかった。ただし、Avasysのトレーサビリティツール、テクノマトリックス社のAccrev（構成管理ツール）、エクスマーション社のXDDP支援サービスが目をついた。11) 2) 8) 9) 大規模はツール群はIBMだけであり、ほかは機能的には単一のもの、絞ったものが多かった。また開発管理ツールがいろいろな個所で、出展。おそらく、自社で使っているツールを販売しているのではと思える。工程見える化など。5), 6), 16)

- 4】 静的コード解析ツール東陽テクニカ社は元気に展示。QAC、QAC++のライセンスのクラウド的な使い方は、いま検討中とのこと。静的コード解析ツールはコベルティ、クロックワークスがバグ検出目的で使用が広がっている。QAC,PG リリーフがコードのコーディングガイドラインにしたがった形式チェックであり、これではバグがわからないという。=>クロックワークスパンフ 12) 3) 7)
- 5】 Z I P C ZIPC のキャッツは今回は単独ブースではなく 4 社合同のブースであった。展示種類はマルチコア用ツールの CoreRA、ロボット用の機能安全ツールなどを展示。ガラカブ 2 の展示
- 6】 その他 MeeGo の実装が 2 例があったが、まだ広がってはいない。17) デジタルサイネージは動画で複数画面を起動が展示。18) 観光などのアプリで使えそう。